

教育新報

新大教育学部同窓会
 第161号
 佐藤重勝
 新潟大学
 教育学部内
 TEL(025)263-6760
 印刷所 (株) 文久堂



より確かな絆を求めて

会長 佐藤 重勝

三月十一日、東北地方を襲った自然の驚異は、地震にとどまらず、大津波、原発事故といまだかつてない複合的な大きな被害をもたらしました。

この地震により、今もなお苦難の状況におかれている方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

同窓会でも被災地の会員と連絡を取り、被害の状況の把握に努めました。幸いにも、被害は少なかつたとの返事をいただくことができました。

しかし、同窓会に入会している十二名の学生会員の家が被災したということとを、大学を通して知ることができました。さらに、この春、入学した学生の保護者からは、「家が被害を受けたために、永年会費の三万円を少し待ってはくれませんか」という問い合わせもあつたそうです。

このようなことを配慮して、被災した会員はもちろんのこと、会員以外の四名の学生にも、お見舞い金を差し上げることにいたしました。

お見舞い金についての規定はありませんが、会員の皆様には、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

また、翌十二日に発生した長野県北部地震で、県内でも被害を受けられた方がいらつしやるのではないかと案じております。もし、同窓会員で被災された方は、ぜひ事務局にご一報いただきたいと思います。

会員が困っているとき、苦しんでいるとき、励ましの声を掛けることは、同窓会の大切な役割ではないかと思うのです。そのことが、絆をより確かなものにします。

さて、この度の大地震に関連して思

つたことを、二つ述べます。

まず、リーダーたる者は部下に卑屈な思いをさせてはならないということ。東電社員のある家族が、あの事故以来、人目を避けながら生活しているということをニュースで知りました。「あれは天災ではなく人災だ」という声も多く聞かれます。

リーダーが先頭に立ち、一日でも早く事態の収束を図るとともに、二度と起こらないような対策を練って欲しいと思います。そして、社員が胸を張って生きていける会社に生まれ変わることを強く望みます。

次に、大震災以前からも気付いていたことですが、政治家と庶民の感性の大きな隔たりです。「日本人のアイデンティティーは我欲。津波を利用して我欲を一回洗い落とす必要がある。やっぱり天罰だと思う。」

「天の恵み」と言葉が悪いが、本当にこの地震が起こつてよかった。」

(4/14付「朝日新聞」から)

ある文脈の中での言葉とはいえ、人としての温かみが徹底も感じられませんが、前者の言葉を発した方には「市民やマスコミからの叱責」が、後者には「落選」という結果が「天からの配剤」でした。「遠慮なさらずに、いつまでもいてくださつてよいのですよ。」被災者に掛けた避難先の庶民の言葉です。

花鳥風月

あなたは、「越後の文人」と聞いて、誰を思い浮かべますか。私は、真つ先に「良寛さま」を挙げたい。先日、良寛没後百八十年を記念して新潟市内のホテルで行われた全国良寛会総会(記念講演)に参加した。「良寛と越

後の文人たち」の演題で會津八一記念館長の神林恒道様のお話を伺つた。良寛の生き方が、本當の意味で評価されるようになったのは、近代以降になつてからである。そこには、埋もれていた良寛を発見したことを誇りに思つていた會津八一と、良寛の生き方そのものを学ぼうとしていた相馬御風の力が大きかつた。同期の二人は、早稲田大学で、西洋近代の文芸を学ぶことから出発した。この二人が良寛を見出したのは、西欧のヒューマニズムの理想とも重なり合う「自然のままに生きる人間の真実の姿」を良寛にみたからである」という。良寛が、越後を代表する文人・教養人の理想像となつたのはこのときからである。

全国良寛会の総会に併せて、良寛のブロンズ像「良寛さん遊ば」の除幕式が西大畑公園で行われた。皆さんは、新大教育学部構内にある「良寛像」をご存じですか。分水町の茂木弘次氏の作で、「天上大風」と題し、子どもが凧に字を書いてほしいと良寛にせがんでいる場面です。是非ご覧ください。

(男)

評議 会 報 告

六月四日(土)新潟教育会館を会場に、五十嵐尤二教育学部長様、顧問の藤井保男様、齋藤寿一郎様を来賓に迎え、同窓会の評議会が開催された。

昨年度同様、今回も評議会の前に支部長・学科代表者全体会とそれに引き続き、各部会を開催した。

評議会では、平成二十二年度会務報告・会計決算報告があり、二十三年度本部役員承認が行われた。続いて本年度活動の重点と各専門部の活動計画、予算案の提案があり、いずれも全会一致で承認された。



挨拶する佐藤会長

冒頭、佐藤重勝会長から、来賓をはじめとして各支部長、学科代表者への感謝の言葉と同窓会会則第四条「本会は会員相互の親睦と資質向上を図り、母校の発展に寄与することを目的とする」を基に、同窓会の意義についての話があった。また、同窓会会員の意識

を高めることを目標に、

- ① 学生生活の充実を図るために同窓会としても大学に働き掛けること
- ② 同窓会会員のために充実した活動を行い、同窓会に入って良かったという気持ちをもてるようにすること



祝辞を述べる五十嵐学部長

続いて、五十嵐教育学部長からご祝辞をいただいた。同窓会の支援に対する感謝の言葉と同窓会が協力的なパートナーとして学生への援助と支援をお願いし、同窓会のために大学ができることをしていきたいというお言葉をいただいた。

- また、情勢報告では、
- ① 東日本大震災の影響で、大学の卒業式も簡略化された。
- ② 昨年度のオーブンキャンパスには千人を超える高校生・保護者の来場があった。

- ③ 教員採用が難しい。定年延長をいらんだ新潟県の採用枠で二十四年度、小学校が七十五人、中学校が六十人と狭き門になっている。新潟県だけでなく他県を視野に入れた進路先を考えざるを得ない。大学では、愛知県と名古屋市で試験を受ける学生にバスを手配する予定である。

- ④ 学部構成は、教員養成課程が二百二十人、新課程が百五十人で、新潟大学の場合、しばらくは現状維持で運営する。
- ⑤ 新課程の学生は色々な職種についている。同窓会としての働き掛けをお願いしたい。
- ⑥ 秋には、新学長の選出が予定されている。などのお話をいただいた。

二十三年度活動の重点

教育学部同窓会により良い在り方を求めるとともに、大学との連携を重視しながら同窓会活動の一層の充実を目指す。

一 「同窓生の集い」の充実

- ・ 内容の充実
- ・ 多くの会員が参加できるように働き掛けを行う。
- ・ 演奏会への市民の参加の働き掛けを継続する。

二 広報活動の充実

- ・ 会員への情報提供及び情報交換の場として、ホームページの活用を図る。
- ・ より親しまれる「教育新報」を目指し、内容の一層の充実を図る。

三 組織の充実と強化

- ・ 各部の事業を基に、会員・準会員の帰属意識の向上を図る。
- ・ 組織部を中心に、今後の支部組織をはじめとする同窓会の在り方を検討する。

四 大学との連携

- ・ 母校の発展のための支援を推進するとともに、大学の情報提供の場を設ける。
- ・ 学部教官の同窓会活動への参加を働き掛ける。

五 全学同窓会との連携

- ・ 全学同窓会交流会への参加を促す。
- ・ 「新潟大学カード」の利用を促す。



評議会

平成二十三年 活動計画

研修部

部長 加藤 文字

広報部

部長 白杵 勇人

組織部

部長 武藤真理子

交流部

部長 山下あい子

一 研修部活動計画

研修部では本年度事業を以下のように計画いたしました。多数の皆様のご参加をお願いいたします。

二 新潟大学教育学部

「第三十八回同窓生の集い」

(一)第一部「歌とピアノコンサート」

・演奏者

歌 松浦 良治さん

ピアノ 栄長 敬子さん

・日時 二〇二一年十月八日(土)

午後二時～四時(開場一時半)

・会場 「だいしホール」

中央区東堀前通

(二)第二部「懇親会」

・会場 新潟会館

・参加申し込み

コンサート申し込みの際に懇親会参加の有無を記入してください。

一 基本方針

○会員の活動を紹介し、その声を取り上げる。

○大学との連携を密にした広報活動の推進を図る。

二 活動の概要

「教育新報」発行年間「回発行」

○第一六一号(七月発行予定)

巻頭言 花鳥風月

第一回評議会の報告

二十三年度活動計画(各専門部長)

本部役員、支部長、学科代表一覧

支部・学科代表者会報告

支部や学科の活動紹介

大学教官の異動及び大学のコーナー

「同窓生の集い」の広報

○第一六二号(二月発行予定)

巻頭言 花鳥風月

「同窓生の集い」の報告

学校紹介小・中特別支援学校

大学のコーナー

二十三年度会務報告

大学教官との懇談会の報告

会員の広場 同期の活動紹介

三 お 願 い

・教育学部、支部・学科の動向についての情報提供をお願いします。

・ユニークな取組、地道な活動をしている会員の皆様方の情報提供をお願いします。

一 活動の重点

① 支部及び学科部との連携を図り、会員の連帯意識の高揚に努める。

② 準会員とその保護者に対して、同窓会活動への理解を得るように努める。

③ 支部組織の改編に向けた諸準備の検討を行う。

二 活動の内容

① 支部長・学科代表者全体会

平成二十三年六月四日(土)

同窓会の現状と課題について

支部長会の開催

平成二十三年六月四日(土)

支部の状況、会費納入などの情報交換を、学科代表者会と同時程で別室において行う。

③ 学科代表者会の開催

平成二十三年六月四日(土)

学科の状況、学科の集いの開催、会費納入などの情報交換を行う。

三 その他

① 教職退職者への対応

② 学部入学生、学部卒業生への対応

③ 検討事項

・今後の支部組織の改編

・同窓会組織の改編

交流部は、今年度次のような活動を計画しています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

一 新潟大学教育学部教職員と同窓会役員との「懇談会・懇親会」の開催

互いの現状を報告し、要望や意見を交換しながら交流を深め、意思の疎通を図る。懇談会の主な内容は、

○大学・学部の現状と主な取組

○卒業生の就職状況と現場との連携

○同窓会の活動への提言

○大学カード利用の促進など

二 教育学部の学生、卒業生の就職活動への支援体制の整備

学生・卒業生の就職活動への具体的な支援について、大学・学部と話し合い、対応策を考え、連携・協力する。

三 会員への働き掛けと資質・指導力の向上

新潟大学大学院の教育学研究科や現代社会文化研究科、免許法認定公開講座等を広く紹介し、参加を呼び掛けて大学に協力するとともに、会員の資質や指導力向上に資する。

四 当県の各種教育関係機関、他団体等との連携促進

全学同窓会交流会への参加など

支部・学科代表者会から

平成二十三年六月四日（土）、新潟教育会館において、支部長・学科代表者の合同全体会とそれに引き続き、それぞれの部会を開催しました。その内容をお知らせいたします。

支部長会

三十五支部中、二十四支部長が出席し、各支部の現状と課題について活発な意見交換がなされた。

永年会員制になったことよって、今後の支部組織についての見直しが求められていることを踏まえ、今後の支部運営について、以下のような意見が出された。

- ・ 個人情報保護の理由で、出身大学を聞くことが難しい。顔見知りの先生を頼りにお願いしている。
- ・ 粘り強く、こつこつと声掛けをして会費納入に努めていく。
- ・ 大学生が現場に入って活動する機会を持つように働き掛ける。
- ・ 大学との結び付きと連携がかなりあり、現場でも助かっている。
- ・ 自然教室などにボランティアとして入ってもらい助かっているの、そのような機会を他の学校でも大いに利用し、大学生への支援も兼ねて実施してもらいたい。
- ・ 会員で良かったという活動の充実をお願いしたい。
- ・ 母校への思いを強くし、自分に何ができるかを探っていきたい。

学科代表者会

学科代表者会には、十七名の学科代表者から参加をいただいた。

会では、学科の集いの持ち方など、学科の現状や課題について活発な情報交換が行われた。

今年も、「学科の集い」を開催しているところや会誌や会報を発行している取組が紹介された。また、学科単独で、地区幹事や年度代表を設けて活発に活動している学科もあった。

課題として、採用が減り、学校現場のつながりができにくくなっている。民間企業や県外の人も多く、学科の集いの参加者が少ない。若い人の出席がなかなか得られない等の課題が出された。また、佐藤会長から同窓会として各学科の名簿を提供してほしいとの要望があった。



学科代表者会

学科の活動 教育心理学

教育心理学科談話会の活動

小林 広 紀（新潟市立西内野小学校）

教育心理学科の同窓会組織は、「談話会」と称して活動を継続してきました。発足当時から、教育心理学の研究特性を踏まえ、活動内容については、実証的で、学術的な色彩をもたせるという趣旨を踏襲してきました。

そのため、毎回大学の先生方からの講義や話題提供と学校現場からの実践レポートという内容構成を心掛けています。平成二十二年二月の談話会は、十六名の参加者を得て、学部教授大浦容子先生からご研究の一端として、「熟達化」に関するご講話をいただきました。研究からは縁遠くなった会員にとって、在学当時の卒論研究、修論研究の苦労、実験データ収集に奔走した日々を想起する貴重な時間となりました。

また、新潟市特別支援教育サポートセンター指導主事、岡田義則先生からは、センターでかわった事例から見えてくる特別支援教育で大切なことや課題についてお話いただきました。

その後の懇親会では、学部准教授柳田多美先生、杉澤武俊先生にもご出席いただき、和やかな雰囲気の中、学部の現状等について貴重な情報を得る機会となりました。今後も、「学術的な談話会」の開催を継続したいと考えています。

ところで、談話会参加会員十六名という数字が示すように、談話会を継続していく上での課題として、会員相互のネットワークをいかに強固にしているかということが上げられます。

名簿情報データベースが進み、会員約三千名の掌握は可能になりました。しかし、若い世代の会員、とりわけ二十代、三十代会員との強いパイプをどう築くかの方策に苦労しているところがあります。教育心理学科の特徴として、「教員以外の職種」への就職者が多いこともパイプ構築を困難にしています。是非、若い会員の皆様方の積極的な参加をお願いいたします。

会員の広場



地域の力に感謝して



上越市立福田小学校

八川 亨

学校は、地域との連携・協力のもとで活動を進めており、「地域の子どもは地域で育てる」とも言われています。教員は、県内の様々な地域で勤務します。これまで一度も訪れたことのない場所の学校に赴任することもあります。知り合いはいないし、地域の様子は分からないし、不安な時を過ごす人もいます。そんな時、この同窓会報誌に目を通すことでホッとする時間を得る人もいることでしょう。学校での取組が進むと次第に周りの自然や人々の営みのよさが分かり、心持ちが変わります。その地域が好きになり、転勤の時、涙することさえあります。

地域のよさに感化されることで、地域が一人一人の教員の力を高めてくれるように思います。地域の力に感謝し、改めて子どものために更なる精進を自らに確認したいと思います。

変わるものと変わらないもの



新潟市立山田小学校

安藤 達郎

大学を卒業して丸六年が経った。いつの間にか、勤務先では、甘えていられた若手から、そうではない立場に変わりつつある。しかし、時は流れても、変わっていないことがある。

それは大学時代の仲間とのつながり。新大バスケットボール部で過ごした仲間とOBチームを結成し、週数回の練習をし、大会に出場している。

日々の仕事に疲れていても、その仲間の顔を見ると、そして汗を流すと、体はクタクタになりながらもリフレッシュできている自分がある。

チームの目標も大学時代から変わらず、「県大会での優勝」「全国大会出場」だが、一つ変わったことがある。

それは、今の方が勝てるようになってきたということ。同じメンバーで続けているからこそその「阿吽の呼吸」「経験の積み重ね」だと思う。年をとるのも悪くないな、なんて感じる今日この

ごろ。

これからも変わること恐れず、変わらないものも大切にしながら、過ごしていこうと思っている。

恩師との再会



燕市立吉田中学校

乙川 尚史

昨年度まで理科センターに勤務していたため、この四月から六年ぶりに学級担任、十一年ぶりに中学一年生の担任をしています。ノート点検・生徒指導・授業準備・部活動と、毎日目が回るくらいの忙しさですが、昨年度と違い、「生徒と一緒に活動することは楽しい」と感じながらなんとか業務をこなしています。

そんな中、先日、大学時代の恩師である鎌田正喜教授と理科について懇談をする機会がありました。先生の何年経っても変わらないパワーや科学に対する情熱を感じながら、楽しい時間を過ごすことができました。

今後は鎌田先生を見習って、理科に対する真摯さを忘れず、気持ちを若く持ちながら、一人でも多くの生徒を理科好きにするよう頑張りたいと思います。

大学教官の異動

○学部を去られた先生

- 教授 田村 裕 (日本中世史)
- 教授 常木 正則 (国語科教育学)
- 教授 近藤フヂエ (西洋美術史・造形芸術学)

- 教授 山本 眞也 (日本画制作) 以上、定年退職

- 教授 藤村 正司 (教育社会学)
- 准教授 和田 信哉(算数・数学教育)
- 准教授 増澤 菜生 (障害児病理学)
- 准教授 神林 信之 (教職指導コーディネーター)

○新しくおいでになった先生

- 教授 小久保美子 (国語科教育)
- 准教授 小堀 彩子 (臨床心理学)
- 准教授 福田 学 (教育哲学)
- 准教授 山本 啓介 (日本古典文学)
- 准教授 岸本 功 (素粒子論)
- 准教授 永吉 秀司 (日本画制作)
- 准教授 福島 愛 (障害児病理学)
- 准教授 一柳 智紀 (教育心理学)
- 准教授 佐藤 佐敏 (教職指導コーディネーター)
- 准教授 古田 和久 (教育社会学)
- 講師 入山満恵子 (言語・聴覚障害指導法)
- 講師 田中 誠二 (健康・スポーツ科学)

大学のコーナー

ひかりは西へ

新潟大学教育学部長 五十嵐 尤 二

高校生時代、哲学に関心があったが文系科目が苦手で、哲学っぽいということ、数学が物理のどちらかにしようと考えた。数学は何かじじくさく、「物質の根源を究める」素粒子論というのがカッコよさそうということで物理学科に進むことにした。大学受験の数ヶ月前に、あこがれていた朝永振一郎氏がノーベル賞を受賞。朝永さんのいる大学にいつてみようかと受験し入学した。ひと目見たかった先生ということで、前の方に陣取って講義を聞いたが、睡魔に勝てず、半分は寝ていたように思う。覚えてるのは、朝永さんが球の表面積の公式を一瞬忘れてしまったことがあったということくらい。ダメ学生の典型だった。

この5人の中に、小林姓が2人。1人は小林昭三、通称「アキゾウさん」で、彼はその後、新潟大学教育学部長岡分校に就職する。もう1人が「マコちゃん」こと、小林誠さん。ある時、「マコちゃん」に質問にいった。明快に説明してくれたのだから、直線の思考にとらわれていた者には、なかなかわからない。そのうち、「どうして君は、こんなに簡単なことがわからないのだろう」といわれているような気になってきた。頭が柔軟で理解力抜群の先輩だった。この年、助手の採用人事がいくつかあった。京大の公募では、1位が上で紹介したポストクの1人で、小林誠さんは2位だった。1位の人が他大学の職を選んだので、「マコちゃん」が京大に就職したと聞いている。数ヶ月して小林誠さんはE研の先輩に当たる益川敏英さんと共同研究を開始して、ノーベル賞に結びつく仕事をする。

数年してこちらもポストクになり、「ひかりは西へ」で、次は京都。基礎物理学研究所(基研)で湯川秀樹さんの古希(だったと思う)のお祝いが開かれた時の出来事である。パースデイケーキに灯されたロウソクを吹き消すのに、湯川さんは、遠いところから消

そうとして、あろうことか、手前のロウソクの炎が彼のあごひげに燃え移ってしまった。そばにいた所長が、あわててもみ消したが、ケーキは「湯川のひげ」がふりかけのようにちりばめられたものとなった。所長のあわてた様子がおかしくて、声を出して笑ってしまいがいい。「オオミヤビトはこれだから困る」と思いながら、仕方なく黙ってひげ入りケーキを食した。

「西まわり」の滞在場所も、国内からはみだして、京都の次はドイツまでとんでしまった。「流学」先のドイツでの数年の出稼ぎの後、地球を一周して帰還した所が新潟だった。

今から10数年前、基研の運営委員を務めた。当時の基研所長だった益川さんは、軽い脳内出血で倒れたあとで、彼の部屋に行くと、何やら小さなメモが何枚もおいてある。こっそり「短期記憶に多少難があって、直前に起こったことが残っていないことがあるのでメモに書いて」と教えてくれた。その後、順調に回復して、ノーベル賞受賞時には「マスクアワ節」もほぼ完全に復活した。

やや暗かった大学時代、トメガネが外れたような大学院時代と数年間の外国生活を終えて、新潟にきてからほぼ30年が経つ。この間、「偉い人たち」だけでなく、いろいろな人たちと遭遇したのが、財産のような気がする。

新潟大学
全学同窓会から

□新潟大学・全学同窓会交流会記念講演会・懇親会のご案内

期 日 十月二十二日(土)

午後三時から

会 場 ANAクラウンプラザ

ホテル新潟

講 師 岡田 正彦(新大教授)

演 題 ほどほど健康術

「健康で長生きする秘訣とは？」

懇 親 会 午後五時から会費五千元

申込方法 先着順

教育学部同窓会事務局まで

□第二回アースコンシャス・

フォトコンテストのご案内

応募資格 どなたでも応募できます

部 門 特定部門テーマ「風」

自由部門

応募締切 九月二十日(火)

作品送付先 全学同窓会事務局

電話 ○二五―二六二―七八九一

□新潟大学カードの利用拡大

コストの面から実際の稼働率が課題になっていきます。

これからも維持していくためには、カード利用の一層の拡大と新規会員の大量入会が必要になりました。

平成23年度 同窓会本部役員

<23~24年度>

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 期, 支部, 学校名等. Rows include 会長, 副会長, 事務局, 専門部 (研修部, 広報部, 組織部).

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 期, 支部, 学校名等. Rows include 専門部 (交流部), 監事, 新潟大学全学同窓会 (理事, 運委, 役員, カード事業推進部), 顧問.

平成23年度 同窓会学科代表

Table with 4 columns: 学科名, 学科代表, 校名. Lists 30 disciplines from 1 to 30, including 国語, 地理, 歴史, etc.

平成23年度 同窓会支部長

Table with 5 columns: 地域, 番号, 支部名, 支部長, 校名. Lists branch leaders across regions like 上越, 中越, 下越, 佐渡.

松浦良治 ～ 歌とピアノコンサート ～

(新潟大学教育学部同窓会 同窓生の集い)

入場無料 席の予約可

日時 2011年10月8日(土) 開場 13:30 開演 14:00

会場 新潟市 だいしホール 新潟市中央区東堀前通

プログラム

(イタリア古典歌曲集)

平井康三郎：歌曲集〈日本の笛〉

シューマン：歌曲集〈詩人の恋〉

シューベルト：即興曲 作品90、142より(ピアノソロ)

シューマン：蝶々 作品2(ピアノソロ)



松浦良治 (まつうら よしはる)

新潟市出身。武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業、同大学院声楽科修了。1979～1982年にウィーンへ留学し、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。留学時にヨーロッパ各地にて演奏旅行を行う。帰国後は新潟市にて独唱会、ジョイントコンサートを開催する他、合唱団とバッハの「教会カンタータ」モーツァルトの「レクイエム」ハイドンの「四季」などテノールソリストとして数多く共演する。オペラでは「コシファン・トゥッテ」「ドンジョヴァンニ」「赤いろうそくと人魚」「直江の躰えらび」などに出演する。新潟大学赴任後は後進の指導にあたり、合唱指揮活動及び近年は地域の伝統音楽の活性化にも取り組んでいる。現在、新潟大学教育学部教授。

栄長敬子 (えいなが けいこ)

新潟市出身。東京学芸大学芸術課程ピアノ専修卒業、同大学院修士課程音楽教育専攻修了。日本大学大学院修士課程人間科学専攻修了。ピティナピアノコンペティション等多数受賞。東京、新潟にて、ソロリサイタルを多数開催(2012年3/20だいしホールにて開催予定)。アンサンブルも多く、特にドイツ歌曲のピアノにも力を入れておりレパートリーも多い。シューベルトの歌曲を演奏する会「新潟シューベルトティアード」での活動や、演奏会企画や解説の執筆、コンクール審査、新潟青陵大学公開講座ではレクチャー「シューベルトを味わう」も今年4回目を予定。新潟洋楽協会役員。新潟青陵大学短期大学部准教授。



このコンサートは新潟大学教育学部同窓会主催の市民開放型の事業で、どなたも参加できます。一般市民の皆様、卒業生の皆様ご参加を心からお待ちしております。※会員懇話会16:30～ 新潟会館も御参加下さい。

950-2181
新潟市西区五十嵐2の町8050
新潟大学教育学部内

新潟大学教育学部
同窓会事務局 御中

席の指定はできませんが、先着順でどなたも往復葉書で席の予約ができます。復信で予約整理券を送付します。ホール定員に達し次第予約受け付けは終了します。予約なしのフリー入場は当日会場にお尋ね下さい。往復葉書受け付けは8月1日から9月20日まで。左の宛て先を切り取り往信に貼ってお申し込み下さい。複数人での申し込みも1枚の往復葉書でお願いいたします。復信には申し込み者の住所氏名を明記して下さい。

※なお同窓会員の方は懇話会参加の有無も往信にて御回答下さい。

連絡先 TEL 025-263-6760

編集後記

教育新報第161号をお届けします。今年度も年2回の発行となります。できるだけ会員の生の声を紙面に生かしていきたいと思っております。情報やご意見等ありましたら、事務局までお寄せください。

事務局だより

◎会費納入のお願い

年会費の納入をお願いします。
振込用紙を同封いたしました。

県内教職員の皆様は各学校・機関単位での入金となりますので、代表者にお届けください。代表の方には大変お手数をお掛けしますがよろしくお願いいたします。